

〈ゆうゆうの里〉震災対応臨時ニュース No.28

春は必ずやってきます！

←桜の花とメッセージ

(安渡小学校避難所の玄関で)

2011年4月14日 (財)日本老人福祉財団

103-0012 中央区日本橋堀留町1-7-7

Tel:03-3662-3611 Fax: 03-3662-3656

大槌地区で入浴介助順調に

第3次隊長レポート②【13日 22:03】

- 3次隊、本日4月13日より本格的に支援活動開始です。
- お天気は快晴でしたが風が強く吹いていました。地元の方の話では、この時期強い風はよく吹くとのこと。強風のため、地震と津波でばらになった壊れたトタンや木材などが飛ばされ、通行の妨げになったり、自動車にぶつかりそうになることがありました。これも、被害の一つです。安全のため瓦礫の多いところでは、自動車で移動するようにしました。

入浴介助(午前中)

- 午前中、新規の男性2名の入浴介助です。
- 【Aさん】大槌稲荷神社に避難されている男性です。
- 不完全麻痺があり足元が不安定で杖を使用されています。・漁業をして生計を立てていました。震災時は、自宅にいた。・震災前は介護を受けていなかったが、震災後数回しか入浴していないとのこと。
- 避難所へお誘いに伺うと、笑顔で応じられました。穏やかな方で終始笑顔、奥様もAさんの入浴の間「少し羽を伸ばせる」と笑顔です。
- 車の乗り降りにやや支えと誘導が必要で、着替えの一部介助。洗身洗髪の一部介助、浴槽への出入り一部介助でした。
- 入浴して、Aさんは笑顔で「きもちいい」と。避難所まで送ると、「何か食べていくか」とおっしゃってくださる。
- 【Mさん】大槌高校に避難されている男性です。
- 下肢に片麻痺があり、装具を使用して杖を使用されています。
- 震災時は、自宅にいた。津波について「あんなのはじめてだ…。」と。震災前、介護を受けていなかった。震災後は、全く入浴していないそうです。
- 元気な方で、終始話しておられた。
- 車の乗り降りにやや支えと誘導が必要。着替え一部介助、洗身洗髪一部介助、浴槽への出入り一部介助で入浴されました。
- 「きもちよかったです。またお願いします。」とのこと。後で、高校に支援に入っている保健師さんから、「泣いて喜んでいた」と聞きました。

【午前の感想】

- お二人はお知り合いのようで、楽しく話しておられました。今回の地震で亡くなられた方の話もされていました。
- A隊員、Y隊員の女性隊員が入浴介助を担当し、異性介護となりましたが、特に抵抗はなかった様子でした。介助に関しては、女性職員のほうが異性に受け入れやすいようです。

情報収集、ニーズ調査

- 午後は、上記Mさんを紹介していただいた、愛知県の保健師さんと情報交換をしました。(このほか秋田県の保健師さんも、町内で活動しています。)
- こちらからは、〈ゆうゆうの里〉支援チームと聖隷支援チームとの大槌町での支援内容を伝えました。
- 愛知県の保健師さんは、大槌町周辺を担当。釜石保健所からの指示を受け、大槌高校を拠点に、安渡小学校、大槌小学校、古学校、大徳院、小国瓦屋、惣川の避難所を巡回し支援に入っています。
- 避難所巡回の中で、保健師さんが入浴等の介護ニーズを把握することがあり、その場合保健師さんが釜石保健所へ連絡、保健所から大槌町福祉課につなげることになっているとのこと。しかし、実際に、支援ができていないかは不明であり、〈ゆうゆうの里〉と聖隷の支援チームで対応できるニーズがあれば、お願いしたいとのことでした。
- 愛知県の保健師も交替制です。交替しても、ニーズがサービスに繋がるよう、〈ゆうゆうの里〉と聖隷の支援チームの支援内容を後任に伝えることを約束してくれました。連絡先の携帯電話も教えていただ

き、今後も連絡を取りあうことにしました。

明日のサービスへつなぐ

- 新規で1名(男性)入浴希望者がありました。4月17日に入浴の予定です。

復旧への動き—大槌町

- 中央公民館(津波で全壊した町役場の避難先)の下に、大槌町の社会福祉協議会の臨時拠点(プレハブ)ができ、県外社協からの応援者も来て、社協の活動が再開しています。
- 大槌町社協は、他の社協から提供された移動入浴車を使って、移動入浴サービスを始めました。4月13日は安渡小学校にてサービス提供するそうです。
- 役場職員の約7割が犠牲または行方不明になった大槌町役場は、中央公民館で活動再開、福祉課も動いています。
- 4月12日より、大槌町のバスが一部運行を再開します。
- 大槌高校は4月20日から授業再開。そのため、大槌高校の避難者は、災害対策本部が被災者の希望を聞きながら県内外の次の避難所を探しています。

聖隷チームの活動

- 小槌エリアでの聖隷チームの活動は以下のとおりです(M隊長談)
- 避難所(弓道場)で午前中、聖隷チームM隊長が介護相談窓口を設置してみたが、介護ニーズは感じなかった(出てこなかった)。介護を必要とされている方は、施設に行っているようだ。または、家に家族がいるので困らないようである。5名の方と話をしたが、傾聴のニーズが強くあることを感じた。

*被災した要介護の方々、町を離れたか、避難所にいるか、自宅に戻っているかのようです。

*避難所や自宅にいての方の中には、これまで通所施設などで利用してリハビリが受けられなくなって状態が悪化してくる方。地震後の生活の激変で体調を崩し、要介護状態になる方たちがいます。

*〈ゆうゆうの里〉派遣チームは半月で20名ほどの入浴援助をしてきました。この中で、ニーズが「無い」のではなく、「無いように見えているが、埋もれている」のではないと感じてきました。「相談窓口」に来ない方、来られない方への配慮もしていく必要があると思います。(田島)

- 13日は、男性1名の入浴介助を行った。明日(14日)は、男性2名の予定。
- 聖隷チーム看護師小田隊員によると、聖隷の次のチームにも看護師が1名いるそうです。本日(13日)〈ゆうゆうの里〉隊、聖隷隊が入浴介助する方の血圧測定を看護師にしてもらうことになりました。

隊員と生活

- 隊員(女性2人)、隊長(男)とも元気です。ただ、埃が舞うので鼻炎になっています。
- 遠野市のスーパーマーケット「アクティ」の品揃えは、ほとんど関東と変わりありません。他の外食の店、ホームセンター、家電量販店なども営業しています。最近の余震の影響は受けていないようです。
- お風呂は、浄化センターのシャワーを使っていますが、12日はLPガス切れで使えませんでした。

昨日、みなさまから寄せられた募金から500万円を中央共同募金会、宮城・福島・岩手各県社会福祉協議会へ送金しました

- ① 義援金(「配分委員会」を経て被災者に配られます。)として中央共同募金会へ250万円(義援金累計505万6千円)
 - ② 被災地での支援活動資金(ボランティア活動資金など)として宮城県社会福祉協議会へ100万円、福島県社会福祉協議会へ100万円、岩手県社会福祉協議会へ50万円(支援活動資金累計404万円)
- 以上で募金から送金した累計額は909万6千円になります。

4月12日までの募金
累計925万円

東日本大震災救援募金(義援金)募集中 〈ゆうゆうの里〉及び本部事務所に募金箱を設置しています

- ☆寄付先や用途を指定される場合、寄付金控除のための領収書が必要とされる場合は、事務所へお申し出ください。
- ☆集まった募金は、日赤、共同募金会、NPOなどに送金し、被災地の救援活動や復興資金に充てます。